

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

無料

第49号

毎月発行

創刊2016年(平成28年)6月16日 木曜日

2016年(平成28年)6月16日 木曜日

「旧藩意識」から「国民意識」へ

〜続・明治思想史のかけら〜

東義大学校人文大学助教授 鈴木啓孝氏寄稿

前号では、明治における歴史の記憶と忘却という点とで、「奥羽」から「東北」へという地域名の変化とあわせて、旧藩意識について触れました。今号ではここにポイントをしぼり、その続きを述べることにします。

いわゆる「東北六県」とは近代以後によく成立した地域概念であって、それほど長い歴史と伝統を誇ることができるものではない。

最近流行の「県民性」もまた然りです。たとえば山形県ならば、「庄内」「新庄」「山形」「米沢」など、幕藩時代の藩域によって細かな区分があり、

執筆者紹介

鈴木 啓孝
(すずき・ひろたか)
東義大学校(韓国・釜山市)人文大学日語日文学科助教授。東北大学文学部、東北大学大学院文学研究科卒業。博士(文学)。専門は近代日本思想史。



外国人がみた幕末日本

さて、現代の我々はすっかり忘れていますが、かつての日本では藩の違いによる人々の断絶は歴然としており、それがごく当たり前にありました。その事実を今に伝える、生々しいエピソードを一つ紹介しましょう。以下、幕末期に日本を訪れた外国人商人が、過去を回想して話したことです。

「これは実際私が目撃したことですが、例えば某藩の侍が私の宅へお出でなされた時、私が椅子を出して、お掛けなさい、私へ寄る、うまく話が出来ると、色々話が出ます。ところが奉公人が来まして、熊本の侍が参りました、どうしましようかと申します。私は勿論通せと申します。私また椅子を持出します。お客が二藩の人となると、奇妙なことになります。二藩の人が安心出来ないようになり、互に睨み合っているところは外国人に逢うようです」(篠田敏造『明治百話』所収「外人の見た明治話」)

外国人の目からは同じ日本

の侍としかみえない二人が、藩の違いのせいで互いに心を許さず、まるで外国人と出合っているかのよう

に警戒する。他方、そういう侍は、本当の外国人である自分と二人でいる時の方がむしろリラックスできて自由

幕末から明治にかけての日本を

目撃した外国人はこう証言しています。実に興味深い逸話です。

「幕末から明治にかけての日本を目撃した外国人はこう証言しています。実に興味深い逸話です。なお、彼はここで、藩の違いによるコミュニケーションの不成立について、当然ではなく「奇妙なこと」として語っています。やがて日本人の側にも、「たしかに、これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。

自意識の変化は、やはり

純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

「これは実際私が目撃したことですが、例えば某藩の侍が私の宅へお出でなされた時、私が椅子を出して、お掛けなさい、私へ寄る、うまく話が出来ると、色々話が出ます。ところが奉公人が来まして、熊本の侍が参りました、どうしましようかと申します。私は勿論通せと申します。私また椅子を持出します。お客が二藩の人となると、奇妙なことになります。二藩の人が安心出来ないようになり、互に睨み合っているところは外国人に逢うようです」(篠田敏造『明治百話』所収「外人の見た明治話」)

「藩情」とは階層間の断絶

ところで、肝心の「旧藩情」の記憶の内容です。

「これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。自意識の変化は、やはり純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

「これは実際私が目撃したこと

ですが、例えば某藩の侍が私の宅へお出でなされた時、私が椅子を出して、お掛けなさい、私へ寄る、うまく話が出来ると、色々話が出ます。ところが奉公人が来まして、熊本の侍が参りました、どうしましようかと申します。私は勿論通せと申します。私また椅子を持出します。お客が二藩の人となると、奇妙なことになります。二藩の人が安心出来ないようになり、互に睨み合っているところは外国人に逢うようです」(篠田敏造『明治百話』所収「外人の見た明治話」)

「これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。自意識の変化は、やはり純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

「藩情」とは階層間の断絶

「藩情」とは階層間の断絶

「これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。自意識の変化は、やはり純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

「これは実際私が目撃したこと

ですが、例えば某藩の侍が私の宅へお出でなされた時、私が椅子を出して、お掛けなさい、私へ寄る、うまく話が出来ると、色々話が出ます。ところが奉公人が来まして、熊本の侍が参りました、どうしましようかと申します。私は勿論通せと申します。私また椅子を持出します。お客が二藩の人となると、奇妙なことになります。二藩の人が安心出来ないようになり、互に睨み合っているところは外国人に逢うようです」(篠田敏造『明治百話』所収「外人の見た明治話」)

「これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。自意識の変化は、やはり純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

「藩情」とは階層間の断絶

「藩情」とは階層間の断絶

「これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。自意識の変化は、やはり純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

「これは実際私が目撃したこと

ですが、例えば某藩の侍が私の宅へお出でなされた時、私が椅子を出して、お掛けなさい、私へ寄る、うまく話が出来ると、色々話が出ます。ところが奉公人が来まして、熊本の侍が参りました、どうしましようかと申します。私は勿論通せと申します。私また椅子を持出します。お客が二藩の人となると、奇妙なことになります。二藩の人が安心出来ないようになり、互に睨み合っているところは外国人に逢うようです」(篠田敏造『明治百話』所収「外人の見た明治話」)

「これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。自意識の変化は、やはり純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

「藩情」とは階層間の断絶

「藩情」とは階層間の断絶

「これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。自意識の変化は、やはり純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

「これは実際私が目撃したこと

ですが、例えば某藩の侍が私の宅へお出でなされた時、私が椅子を出して、お掛けなさい、私へ寄る、うまく話が出来ると、色々話が出ます。ところが奉公人が来まして、熊本の侍が参りました、どうしましようかと申します。私は勿論通せと申します。私また椅子を持出します。お客が二藩の人となると、奇妙なことになります。二藩の人が安心出来ないようになり、互に睨み合っているところは外国人に逢うようです」(篠田敏造『明治百話』所収「外人の見た明治話」)

「これは実に「奇妙なこと」だ、我々は同じ日本人じゃないか」という感覚が共有され始めます。自意識の変化は、やはり純粋な自己反省のみが理由でなされるわけではないようです。外部の目を気にしてその認識を受け入れ、その評価にあわせることによる

儲かる東北水産業は本当に実現できるか？

「儲かる漁業」とは、大震災発生前から東北水産業が抱えるすべての課題を一挙に解決するためのシンフルな標語になりうるのだろうか？そして、ほんとうに実現できるのか、ビジネスモデルはノルウェーなどの北欧漁業先進国で問題ないのか？

主として以下の項目に集約される。

① 超高齢化

60歳以上の漁業従事者が5割に近く、70歳以上も23%いるという超高齢事業分野である

② 低収入

さまざまな平均年収データがあるが、200万円を下限として、250万円とか260万円といわれている。ちなみに北欧ノルウェーでは580万円から1000万円という。2倍から4倍の開きがある

③ 後継者不足

あまり魅力的な職場とは言えない状況なので、後継者不足は自然の成り行きである

④ 漁業従事者減少

2013年時点では、漁業従事者は18万人強と50年前の3割の水産という日本の代表的企業のトヨタ自動車1社の連結従業員数は、2012年時点で32万人以上であり、はるかに及ばない規模である

⑤ 個人規模の事業による種々の弊害

零細な個人事業主が多数派であり、そのため近代的な設備投資がむずかしいなど多くの課題を抱えている

⑥ 企業参入拒否

個人でだめならば、企業の参入を認めればいいのかと思いが、漁業権の問題などで、企業の参入がほとんど進んでいないし、拒絶反応が存在する

⑦ 設備投資による大規模化不能

前述のように、個人事業主では近代的な設備投資も、巨大な養殖施設も導入がむずかしいという点で、北欧の漁業先進国などの他国の漁法に立ち遅れていくのは仕方がない

⑧ 海鮮の消費低落

最後にとどめを刺すのが日本国内の海鮮類の消費低迷である。市場が縮小していく状況下での漁業再興はむずかしいし、ましてや「もうかる漁業」は望むべくもないと思ってしまうところである

「もうかる東北水産業」への転換ですべての課題が解決するか？

個々の課題を順に眺めていくと、本当に打開の道があるのかどうかと暗い気分になっていく。

目指すべき目標……北欧漁業モデルか？

かつて、大震災発生直後に、三陸水産業支援のために来日した北欧の水産業者たちを追い返してしまっ

た。しかも、この「もうかる漁業」という一語に負けてしまったと感じた。当新聞は、一応新聞と銘打つ以上、あまり新聞にふさわしくないもの言いは控えようと思つてきた。あるいは、当事者でもないのに、さまざまな努力を重ねている東北水産業に、ズカズカと土足で踏み込み、素人の処方箋を提示してはいけないのではないかと遠慮してきた。そのため、三陸の水産業復興もしくは再興に関する記事には、回りくどいもの言いかしてこなかったという思いもある。

「業」という言葉を対比し、もうかれれば、すべての課題が解決するかどうか考えてみよう。大胆に切り込めば、もうからないから、低収入になり、結果的に後継者不足になり、超高齢化になり、次第に漁業従事者が減少していくという悪循環に陥るのである。もうからない構造を招いているのは、大規模化によるコストダウンがむずかしいからであり、あえて言わせてもらえば、個人事業主が大半であるためである。であれば、農業に企業の参入を一部認めたように、漁業にも積極的に企業参入を認めてはどうかという議論も成立する。

さらに、目指す方向性が東北水産業の「復興」ではなく、それ以上の「再生」や「再興」というならば、産業構造の大変革に着手しないとむずかしいと思うのである。大改革にはある種の痛みも覚悟しなければならぬ。しかし、それを大震災発生直後にはなかなか言えなかった。しかし、5年以上経過した今だから、ようやく議論もできるようなようになってきたと言えまいか。

とはいえ、現在の日本の水産業の状況を改善するために見習うべきところは多いのも事実である。再生事業として取り組むべき

に大きく舵を切らなければならぬようだ。これまでのように、助成金のおねだりばかりでは水産業再生など望むべくもない。そのためには、厳しい是々非々の議論が必要であり、感情論が優先であつてはならない。例えば、企業参入の問題にしても、漁場を荒らす心配より、日本の漁業が消費するリスクを最大課題にして、妥協策を検討していく方向に進むべきである。あるいは、現在の漁協にすべてを頼る方式から、漁業従事者が組合を作るとか、民間企業に門戸を開け、共同で事業を開始するなどの多様な方策を、具体的に検討してもいい時期である。その理由として考えられるのが、もつと魅力的で高収入な労働市場があつて、そちらに水産従事者が流れているせいであり、全体の漁獲量が増えれば、一人当たり漁獲量が増加し、結果的に収入が増えているだけではないかという見方も存在するようである。したがって、無批判に北欧漁業を目指すべきモデルにするには、ある程度慎重であるべきであると考えられる。

筆者の個人的な意見を言わせてもらえば、まず、水産物の多様化を図って欲しいということである。筆者はたまにスーパーなどに買い物に行き、特に魚売り場をのぞくのが好きであるが、魚の種類が少なく、いつもほぼ同じ顔ぶれで、消費心が刺激されない。聞くところによれば、魚の水揚げの現場では、スーパー担当者の大量買い付けから漏れた魚類は、その場で捨てられるという。数が揃わず大量消費に向かないのがその主な理由らしい。最近では、一部で、捨てられる運命の魚を、船に乗り込んで買い付けるベンチャー的な仲間も出現しているようだが、少数派である。消費者の消費心を刺激するような多様化や、めずらしい魚類の美味しい料理方法を伝授するなり、これまとは異なった手法取込が必要であろうと思う。そうすれば、もつと魚を食べたいという消費者はかならず存在すると思う。

日本の漁業は縄文時代以来の産業であり、手法的にも大きく変化していないと言ったら、みなさんは驚かれるだろうか。あるいは、縄文人は、現在とあまり変わらない魚類を食べていたと言ったら驚かれるだろうか。確かに、設備は近代化し、見違えるようになってはいるが、根本的な部分はあまり変化していないのである。したがって、近い将来、日本の漁業が消費するといふことは、すなわち縄文以来、五千年も一万年も続いた水産業を消費させるといふことであり、この世代で途絶えさせていいはずがないと思うのである。



ノルウェーの水産加工場風景

「SOSムースブルグ子どもの村」の視察(その2)

「子どもの村東北」村長が語る その④

「子どもの村東北」村長

今野和則氏



前宮城県立石巻支援学校校長。宮城県行政職を経て公立小学校教員。宮城県教育庁特別支援教育室長補佐、気仙沼支援学校校長、宮城教育大学付属特別支援学校副校長を歴任。東北福祉大学で後進を指導中。石巻市出身。

1 ヨーロッパにおける「子どもの村」とは

「子どもの村東北」に対するドイツの支援者からも、そしてフランスの支援者からも、自国では「子どもの村」と言えば、知らない国民はいないのだ、と聞きませした。さらに、オーストリア訪問の際は、その「子どもの村」が公費で運営され、尚かつ、ほぼ同額の寄附金が集まるほど国民から支持されているのだという話を直接うかがいました。

そのような社会福祉分野の機関が、日本では考えられないことから、一体「SOS子どもの村」という存在は、我が国になぞらえればどんな組織なのかを、オーストリア訪問中、自問自答していました。

「子どもの村東北」村長

今野和則氏



前宮城県立石巻支援学校校長。宮城県行政職を経て公立小学校教員。宮城県教育庁特別支援教育室長補佐、気仙沼支援学校校長、宮城教育大学付属特別支援学校副校長を歴任。東北福祉大学で後進を指導中。石巻市出身。

2 ヨーロッパ文化と日本との違い: 「時間」

私だけではなく、今回の視察の同行者の多くが、こんなことで戸惑いました。例えば、ホテルのエレベーターに乗る。向かう階のボタンを押す。「閉」のボタンはない。扉はなかなか閉まらない。エレベーターは動かない。また、向かう階のボタンを押す。動かない。「故障?」。数秒待つ。や

3 ヨーロッパ文化と日本との違い: 「ハレとケ」

遅いエレベーターが待たなくて、階段を駆け上った同僚がいました。薄暗いホテルの階段。案の定、転んで足をくじいたとのこと。町の中も、冬で日暮れが早いこともあり、暗く静かです。ホテルは駅の近くにあって、見られませんが、商店街など見られません。ぼつんぼつんと、明かりのついたレストラン、パン屋、商店があるだけ。無駄な明かりはないのです。おまけに、町中を走る車も、「SOSムースブルグ子どもの村」が視察団の私たちを送迎する車も、多くはかなり古い車。いたんでは、汚れている。しかし、さすがクラシック音楽の国。そんな小さな地方都市にも、オペラハウスがありました。そして、オペラ開演の日は、オペラハウスの一角は全く別の情景となります。正装をした男女が、数時間のオペラを楽しむに集まります。私たちが、オペラハウス近くのかかわしい日本料理屋(中国系)で、おそらくはあやしい「一番搾り」という日本のビールを飲んで会場に向かったのですが、そんなことをする必要は全くありませんでした。オペラ開演前には食事が楽しめ、中間の休憩時間にもワインや軽食が楽しめる場所が劇場内にありました。「ハレ」と「ケ」。日本でもかつては明確になっていた「祭り」と「日常」の日の区別が、しっかりと残っている。オペラハウスを後にして、暗い通りをホテルに向かい、まだ耳に残る生

4 ヨーロッパ文化と日本との違い: 「職業意識」

訪問した二人目のマザー(里親)の家では、帰宅した女の子と出会いました。日本であれば高校生の年代ですが、すでに職業についていました。鉄の職人(マイスター)となるために修業をしているとのこと。うれしそうに、恥ずかしげに自分の鉄の作品(置物)を見せてくれました。マイスターを目指して、自分の職業技量を磨いているのです。先に、レストランでのウェイターやウエイトレスとのやり取りを書きました。彼らも自分の職業の専門性を大事にし、誇りを持っていきます。ですから、メニューから食事内容を選ぶ際も、コミュニケーションを大事にしなが、客のベストな選択をサポートしてくれるとのこと。これについては、同行の通訳から、再三指導されました。彼らの職業人としての誇りに敬意を払いながら、やりとりの時間を楽しみなさいと。

5 日本における里親制度の大きな課題

さて、ヨーロッパ文化と日本のそれとの違いについて、短期間の訪問で受け取ってきた印象を述べてきました。大きく括るとそれは、時間の流れが緩やかで、変化に対して慎重であり、無駄は省きながらも、自分たちの歴史や文化に誇りを持っているという感じがするということになりました。ああ、私たちは、おそらくいつの間にか、アメリカ的な文化に染まってきているのだなあ……という印象。では、肝心の「子どもの村」や里親制度の決定的な違いについて、筆を進めよう。

6 最も大切なのは 家庭であり家族

今回のオーストリア訪問の中心は、ユース(若者)の問題でした。我が国も同様のようですが、「SOS子どもの村」で養育され、思春期を終えても自立できない若者の問題は、重要な課題です。そのための施設を設ければ、いつでも面会に行けます。」というのが主たる実親側の理由と聞きますが、その面会は、必ずしも多くはないようです。所謂里親に対する「里心」がつくことを、実親が懸念しているのではないかと、私なんぞは勘ぐってしまいます。本当に自分の子どもを大切に思う実親ならば、もっと家庭養育を望む人が多くてよいのではないかと。





刺身・・・渋谷



メカブゴ飯・・・渋谷



ワカメサラダとホヤの酢の物・・・渋谷

三陸酒海鮮会は、渋谷開催も日本橋開催も、スタートしてから三年以上経ちましたが、双方とも、依然として参加者数は衰えずに継続しております。
常連の参加者ももちろんおられますが、毎回、新規の参加者の方々も増えてきて、毎回、とても刺激的な会となっております。

大震災発生直後には同様の企画が乱立気味でしたが、いまは数えるほどしか残っていないと思います。この点に関しては、開催場所の渋谷は焚火家さん、日本橋はささやさんのご協力にほんとうに感謝申し上げます。

また、三陸海鮮の素材の良さは、大分浸透してきました。しかし、東北の地酒のうまさも浸透してきました。参加者の方から、提供された地酒について、以前同じ銘柄のものをいただいたが、あまり美味しくなかったという声がありました。

この会では、海鮮に一番フィットする純米酒ないし純米吟醸酒しか提供していません。飲んでいただくところ、とてもおいしいという評価でした。企画開始前の日本酒の勉強が役に立ったと言えます。次回の渋谷開催では、東北の地酒も良いが、東北は地ビールの産地でもあるので、東北地ビールが初お目見えとなる予定です。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

たくさんの方々のご参加を!
うまい東北地酒と三陸海鮮の会
第20回 三陸酒海鮮会の渋谷開催
第18回 三陸酒海鮮会の日本橋開催



地酒ラインアップ・・・日本橋



海鮮焼き・・・渋谷



干しスルメイカ素材



水に戻して小さくカット

第22回 水産業再興のための料理レシピ紹介
【干しスルメイカの麴入り塩辛】



完成品



郷土料理愛好家
松本由美子氏

一簡単レシピ

【材料】 干しスルメ 3枚 塩麴 大2 醤油 大1 麴(蒸らし)大5 塩ひとつまみ 鷹のツメ 1個

【作り方】 ①スルメは、水にもどして小さくカット(今回、逆です)
②柔らかくなったら、材料をまぜます。最後に鷹のツメを小口にしていれます。
③3~4日すると麴の発酵がすすみ、麴の旨みとスルメの香ばしさがなんともいえず、美味しくなります。

*乾スルメの塩辛は、日にちが経つ程美味しくなります。麴の発酵旨みが増しますのでやめられなくなります。体にもよい麴菌です。かなり、いけます(松本氏談)

東北の観光における復興の現状とこれから

度までに2300万人という数字も現実味を帯びてきたことになる。

これまでの推移としては、震災前の2009年が1937万人、2010年が1979万人で、そのま

まいけば翌年は2000万人を超えそうだったが、翌2011年は東日本大震災の影響で1621万人

2012年が1855万人、2013年も1867万人と震災前の水準には戻らなかったが、2014年によ

うやく1975万人と震災前の水準に戻っていた。2015年の2229万人は、前年の12.9%増という伸びとなったわけだが、その要因としては震災の風評被害が一定程度収まったことや、仙台みみの杜水族館が開業したことなどが挙げられている。

過去最多となった

仙台への観光客

仙台を訪れた観光客の数が昨年2015年、初めて2000万人を超えて過去最多になったことが仙台市の調査で分かったそうである。正確には22293853人とのことで、仙台市が目標に掲げている2017年

執筆者紹介

大友浩平

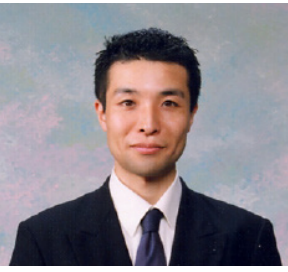
(おおともこうへい)

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

http://blog.livedoor.jp/anagmasi/

Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo



は24071人と激減し、その後2012年57297人、2013年55871人、2014年6834人とな

かなか震災前の水準には戻らなかったが、2015年は前年比168.4%という高い伸びとなった。この要因としては、昨年3月に国連世界防災会議が開催されたことが挙げられている。

外国人宿泊者を地域別に見てみると、アジアが7096人で最も多く、次いで北中南米が16392人、欧州が11028人、オセア

ニアが1894人、アフリカ1589人などとなっている。国・地域別に見ると、台湾が37660人で最も多く、次いで中国が13787人、アメリカが13452人、タイが6967人、韓国が4124人、香港が3458人などとなっている。

仙台の観光は

仙台だけでは成り立たない

しかし、仙台だけ観光客が増えたと喜んでいてはいけない。そもそも、仙台は他地域と組まないと成り立たないという側面がある。

例えば、観光庁は今年3月、「東北6県の観光魅力100件」を選定した。これは、「東北の観光資源について広く国内・海外に情報発信を行い、東北への来訪促進を図るための新しい試み」とのこと、応募のあった

1264件の中から「見るもの」「食べるもの」「買えるもの」「体験」の各カテゴリーで合計100件を選定したもののなかだが、この100件の中で、仙台に関する観光資源は実に「仙台七夕まつり」ただ1件だった。つまり、仙台の観光資源は東北の他地域と比較すると決して多いとは言えないのである。このことから考えても、仙台の観光は仙台だけでは決して成り立たず、むしろ、東北各地の観光情報の発信基地となるべき立場であるのである。

ちなみに、「100件」を県別に見ると、青森が28件と最も多く、次いで秋田が21件、宮城が18件、岩手が16件、福島が15件、山形が11件となっている(複数県にまたがる観光資源もあるの

で合計は100を超える)。青森や秋田に「東北のベスト」の観光資源が多いことが分かる。

仙台駅の新たな取り組み

たまたま仙台駅3階のみどりの窓口で切符を買おうとしたら、壁面のディスプレイで「ヨリ未知 SENDAI」と題した、東北の名所、名産品を紹介するプロモーションビデオを流していた。JRがつくったビデオだけあって、一つひとつ、仙台駅を起点とした場合の経路や所要時間まで

図示されて、いざ行ってみたいと思った時に役立つような内容だった。キャッチコピーが「冒険しよう、陸(みち)の奥へ。」で、「ヨリ未知 SENDAI」が目指すのは、「どこかへ『寄り道』したくなる情報が集まった駅」とある。

まさに、仙台の立ち位置はこれで、JR仙台駅はそれを十分意識しているように思える。この「ヨリ未知 SENDAI」プロジェクト、3月の仙台駅東西自由通路のオープンに合わせて始まったもののように、「東北の未だ知られざる多くの魅力を仙台駅から発信する」ことが目的だそうである。これは素晴らしい試みである。実際、私が目にしたプロモーションビデオ以外にも、東北のこけしや漆器、民芸玩具が展示してあったり、宮城の80種の食がミニチュアで紹介されていたり、東北の花見スポットや名峰が紹介されていたりといった工夫が駅の中のあるところにあるようである。

唯一残念なのは、この「ヨリ未知 SENDAI」ウェブページ(<http://yominichi-sendai.jp/>)にある情報は仙台駅とその周辺のみ情報にとどまり、プロモーションビデオで紹介していたような東北各地の情報がなく、これは「東北の未だ知られざる多くの魅力を仙台駅から発信する」という趣旨から言えば不十分と言わざるを得ない。

せめて、駅の中で流していたプロモーションビデオをウェブ上で公開するだけでもいいと思う。キャッチコピーが「冒険しよう、陸(みち)の奥へ。」で、「ヨリ未知 SENDAI」が目指すのは、「どこかへ『寄り道』したくなる情報が集まった駅」とある。

世界に向けて発信する

復興庁の資料によると、外国人宿泊客の数は、全国では2010年の2602万人から、2014年には4207万人と、実に161.7%の大幅増となっている。しかし、これを東北に限って見てみると、2010年の51万人から2014年には35万人と、なんと逆に70%に減少している。2010年比で外国人宿泊客が減少している地域は東北だけで、いわば東北の「一人負け」状態なのである。

その背景にはもちろん、いまだに東日本大震災の影響があることは間違いのないところだろうが、そうした風評を払拭するだけの情報発信ができていないということでもあるわけである。こうした状況を受けて、観光庁は今年度、東北六県の観光振興を目指して、全世界を対象にした初めての大規模キャンペーンを行うそうである。震災復興関連予算から10億円を確保して、海外の著名人を起用したテレビ番組の制作、各国のメディアや旅行会社を招くツアーなどを実施して、東北の観光情報を集中的に発信することである。

東北の強みを活かした観光復興を

観光復興を

同じ観光庁の資料では、「訪日前に期待していたこと」については、最も多かったのが「日本食を食べること」(70%)で、次いで「ショッピング」(53%)、「自然・景勝地観光」(43%)、「繁華街の街歩き」(37%)、「温泉入浴」(35%)が多く、ちよつと下がって「旅館に宿泊」(21%)、「日本の酒を飲むこと」(20%)となっている。「テーマパーク」(15%)、「日本の歴史・伝統文化体験」(14%)、「日本の日常生活体験」(13%)、「四季の体感」(12%)などはそれほど多くはない

情報よりも、個人の発信した情報を参考にするという傾向が見て取れる。国が予算を確保しての公式なレベルでの情報発信を行って、そのほかには、個人発信の情報も必要なのではないだろうか。また、日本側でも、東北の情報を発信する個人ブログなどを、各国語対応も含めてどう充実させていくかということの方が、効果の面で言っても取り組むべき喫緊の課題であると言える。

(ただし国によってかなりばらつきはある)。

東北の得意分野でこうしたニーズに対応することを考えると、まず「ショッピング」や「繁華街の街歩き」などでは他地域をしのぐような対応は難しい。これらについては首都圏など大都市圏に強みがある。

東北で力を入れるべきは、何と言っても、「日本食を食べること」、「自然・景勝地観光」、「温泉入浴」であろう。これらに対応することを重点的に考えていくのが東北の観光復興には最も良いのではないかと思われる。東北の食、自然、温泉は、日本の他地域に比べても、かなり良いものを持っている。それを外国人向けに大いに情報発信すると同時に、いざ来てくれた際の受け入れ態勢もしっかりと整えることがこれからは必要なことであるのではないだろうか。

食に関して言えば、「最も満足した飲食」でも多かったものの中で、「寿司」が一番なのは予想がつくとして、次いで「ラーメン」が来て、その次は「肉料理」で、この3つが圧倒的であった。これらもまた、東北でも美味しい食べ物である。海外に向けた東北のこれらの料理のマップを作るなどの工夫も必要であろう。

「訪日前に期待していたこと」(70%)で、次いで「ショッピング」(53%)、「自然・景勝地観光」(43%)、「繁華街の街歩き」(37%)、「温泉入浴」(35%)が多く、ちよつと下がって「旅館に宿泊」(21%)、「日本の酒を飲むこと」(20%)となっている。「テーマパーク」(15%)、「日本の歴史・伝統文化体験」(14%)、「日本の日常生活体験」(13%)、「四季の体感」(12%)などはそれほど多くはない



連載
むかしばなし

色巻のむかし
今更ニ

第三十七話
宇宙喫茶談義

その「船室」には、窓がなかった。外部から伝わってくる機械音とともに微弱に震動する六畳ほどのその部屋は、机も椅子もほとんど赤銅色の金属製だが、一応食堂か喫茶室のようにも見える。

青龍蝦の姿をした「宇宙船」を降りて、喜善と賢治が最初に目にしたのは同じく甲板に佇む奇妙な形の船三隻と、女飛行士・トヨハと同様の無骨な黄土色の衣服に身を包んだ十人程の乗員の姿だった。二人はまず非常に閉塞的な小さな部屋



奥羽越後現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出で演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

に通されてその服装のまま不思議な薄緑色の光と風を三十分程受けた。

「放射性・何某を取り除くのだとか。宮澤君、放射線とはそんなに危険なものなのか」

喜善が和服を振り払いながら、怪訝そうに尋ねた。賢治は何事か考え込んでいる風だったが、首を振って応えるだけだった。

「この部屋・宇宙を回転しているのだな。それで、目が回らないように窓をつけていないのかも」

賢治が室内を歩き回りぶつぶつ呟いていると、間もなくトヨハと他に壮年の男、もう少し若い女の計三人が部屋へ入ってきた。いずれも東洋人・いや日本人そのものに見える。

「気分はいかが・どうぞ、くつろいで下さいな。」

トヨハは木製の盆に乗った二つの白いカップをテーブルの一つに丁寧に移した。湯気が立つ器の中は、透明ながら紫がかった液体で満たされている。

「宇宙茶・紫外線に強い高山性の茶葉です・ポリフェノールを多く含みます」

紅茶好きの喜善がその独

特の風味に唸る。

「彼は小野寺・彼女はカール・ギン猪狩。この三人が最後の日本語者よ。」

愕然とする二人の前に、小野寺と紹介された男性が、抱えていた厚いガラスケースをテーブルに置いた。その中には、一本の黄金色の稲穂が横たわっている。

「こ、これは・・・」

賢治は身を乗り出した。先「青龍号が今日採取した穂のサンプルよ。」

「食糧ではないのかい。」

「研究調査の為の採取よ。強い放射能を帯びている」

「どんな危険があるか・・・話してはもらえないのかい。」

「放射能は地上の人間、半数の生物を滅ぼした。まあそんなような危険ね。」

賢治は絶句した。

「この穂は、この船を研究所にして交配された。目指すのは放射能を浄化する品種。作っては地上へ持つて降りて、青龍号を使って植えてくる。私は担当五年目だけ、目立った成果はなしね。」

「しかし・・・世界中の地表が汚されているとなれば、途方もない作業では。」

「二ダヴンサイドの実験場は日本列島。今日いたのは

シオナイという平原ね。」
「庄内・ついで山形県の？」
小野寺がニヤリと笑う。
「彼はヤマガタの人よ。お二人はイワテの人・・・どちらとも東北？稲の改良で有名な所だったそうね。」
「東北が稲の改良の名所だつて・・・まさか。」
「これ以上は貴殿方も知らない方がいいかも。それより、これからどうやってお二人が元の世界へお戻りになるか・・・」
「もう少し、教えてはもらえないか・世界に、何が起きるのか。どうすれば、それを防げるのか。」
他の二人に目配せしてから、トヨハは語り始めた。

喜善が苦笑いを浮かべ、顎に生え始めた鬚を掻く。
「トヨハさん・正直なところ、貴女は話したくて仕方ないのではないですか。何しろ、放射線が発見された時代の人間が、まさに目前にいるのだから。」
「確かに、放射線の恐ろしさを存じない方には、知ってもらいたいと思つてしまふのが人情です・・・だけど、それは今、適切ではないわ。」
「僕らがこゝへ来たのは何らかの意味がある・・・僕らのような者が知つたとして、何の影響も持たぬというなら、こうして出会つた以上、交わすべき事柄は交わしておこうではありませんか。」

いつになく雄弁ながら、強い南部訛りの喜善なのだ。もう一人の女性、カール・ギン猪狩が口を開くとどうも会津辺りの響きである。放散を生み出すのは原子力という途方もない熱源・・・石炭・石油の次世代を担うエネルギーと謳われましたが、巨大な破壊をもたらす爆弾にもなる。日本には戦争の時二回、この爆弾が落され壊滅しました。」
「な・なんと。それは、どこですか。どこに」
「いずれも西日本です。ですが、後年、この熱源を持つ発電所が日本中に作られ、その一つが事故を起こした。これは東北でした。」

「小野寺が引き継ぐ。」
「だが日本政府はこの熱源を手放さなかつたようだが、何故かはわからないが、外国にまでこの熱源を売りつけ続けた。その結果が、どうだ・・・全世界の土が汚染され、それでも住み続けたい人は、徐々に滅びる途を辿つた、という訳です。」
「戦争・・・ではないのですか。爆弾と聞いたのでそれで世界が破壊したとばかり」
賢治が机に拳を打ちつけた。感情が昂ぶっている。
「くそ！何という世界だ・・・何という未来だ・・・」
トヨハが言う。

「もちろん、貴殿方に責任などない。苦しまないで・・・この世界ではもう既に全て起き、終わってしまった。私たちは消滅を待つだけの日々・・・逆説的に言えば、最早何の不安も持たない。」
「どうにもならぬのですか・・・こうして宇宙に住んでいても？」
「この宇宙には、長い期間には住めないんです、佐々木さん。宇宙にも自然の放射線が強烈に存在している、この船の壁でも遮断しきれない・・・だから、私たちは徐々に滅んでいくんです。」

鞭桶の丘にも、雨の夜が訪れようとしていた。狼の遠吠えらしき声が聞こえる。
「ああ、ここに来る時に一緒だった一匹狼だな。」
石川善助はその声のする方向に目を凝らした。
「石川殿、若殿、もう夜に帰らぬ方がよさう。某はここで良いから。送つていこう。」
「若さんはその方がいいね」
しかし少女はやりわりと撥ね付けた。
「お構いなく。小次郎さまも、お一人より三人の方が何かと退屈しませんよ。」
諦めた泰衡は、陣内に残されていた野営用の毛皮を持ってきて、二人に渡した。雨を凌げる屋根の下に木炭で暖を取ると、泰衡は背負えるくらいの木箱から弁当箱のような物を二つ出し、開けると、どうやら茄子を漬けたものと、何か茶色の塊が入れている。

「これは・味噌ですか。」
「いかにも。国分寺で頂戴した物だ。口にしたら事は」
「庶民は誰でも食べています、味噌汁にして」
「味噌汁とは初耳だ。美味そうだな・市井でも味噌が広まるのは、いい事だ。」
質素なようだが、この時代味噌は高級品なのだ。
分けられた味噌を舐めながら、善助が少女に尋ねる。
「佐々木先生は仙臺にお住まいを移されるの？」
「ええ・遠野がどうにも住み辛くなってしまつて。向こうに帰りましたら、宜しくお願ひしますね、石川さん。」
「いや・わたしは、九月から東京に出る事に・・・」
「まあ東京ですか。父が羨ましがりますね・・・」
「東京・東の京か。将門

「某、金売りの吉次の配下に混じつて身分を隠し、夜な夜な牛若に奇襲をかけ、その器量を見定めていた」
その時、若が何かに気づいた。
「誰か、来ます！あの灯り・・・汽車の方でしょう。」
確かに、西の方角の草原にランブラしき灯りが二つ揺れているのだ。叫ぶ男の声が聞こえる。
「伊達さま！伊達の小次郎、泰衡さまはおられませんか」
機関士の一人のようだ。
「こちらにおりますが。」
「おお！まだお留守りであったか・雨の中、難儀ではございますが、我々とお出でいただけますか。伊達さまにお会いしたいという方がおられて・・・どうも動く事が叶わぬ様子なので」
「はて、どなたかな。」
「面妖な話ではございますが、草原の真ん中に際限なく実なる奇怪な木の樹があつて、そこに登つた小僧が言うのです・・・貴方様をお連れして来い、と。」
丘の上の三人は、顔を見合わせた。泰衡が呟く。
「来たか、赤嶋丹十郎。」

——次回予告——
「こらつ義経の話の腰を折るな！」とお怒りの方、ごめんない。次回、ここにきて「えつ誰？」と言いたくなる意外な武将、登場！

シリーズ 遠野の自然
「遠野の芒種」
遠野 1000 景より

六月六日ごろは、二十四節季では芒種(ぼうしゅ)にあたる。あまり耳慣れない言葉である。

稲の穂先のように芒(とげ)のようなもののある穀物の種まきをする頃という意味であるが、現在の種まきは大分早まっているので大分ずれがある。



SL 銀河と菜の花畑

遠野では、引き続き花の季節である。
*
今月は、関東や西日本ではあまり見かけない花々を



グミ

取り上げてみようと思う。

「SL銀河と菜の花畑」の組合せは、遠野ならではの。SL銀河の黒と菜の花の黄色がくっきりとしたコントラストを形成し、鮮やかである。



カリン

「グミ」の花もあまりお目にかかることはない。筆者は幼少時にグミの実を食べたことがある。熟していれば甘酸っぱいが、熟す前だと渋さが強烈である。「ウラシマソウ」は初めて聞く花だ。



ウラシマソウ

「グミ」の花もあまりお目にかかることはない。筆者は幼少時にグミの実を食べたことがある。熟していれば甘酸っぱいが、熟す前だと渋さが強烈である。「ウラシマソウ」は初めて聞く花だ。

「ハナイカダ」も変わった花である。葉の上に花が咲く。名前の由来は花筏であり、花の載った葉を筏に見立てたものとのことである。「シウリザクラ」はバラ科サクラ属で、あまり似ているとはいえないが、一応サクラの仲間である。「シロバナのタンポポ」タンポポといえは黄色と相場が決まっているが、白はめずらしい。「ハナカイドウ」はリンゴの仲間の可憐な花である。



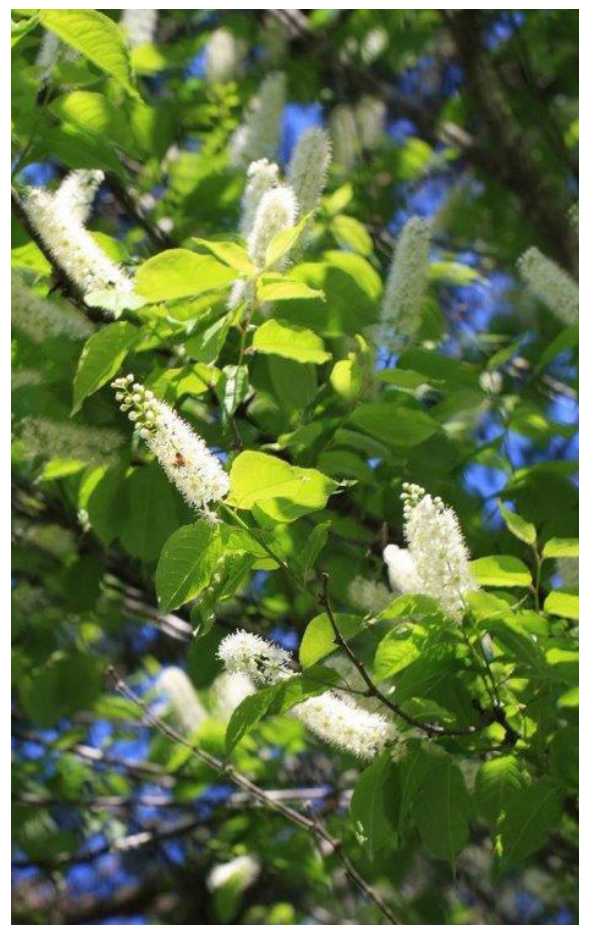
ハナイカダ



ハナカイドウ



シロバナのタンポポ



シウリザクラ



今年度が最後の準備の年と位置づけ、来年からの本格稼働へ向けて動く。

石巻に新しい復興の風を

若者が中心となって立ち上げたNPO法人が新しい手法で風力発電所開発に挑戦する！
-NPO法人STEELAのプロジェクトのレポート-

私たちの活動は2012年の発起人会から4年目となる。

全ての社会問題を解決することはできなくても、何か一つでもできることがあるのならやってみない？

「僕らがいつか親になる日が来た時、子供に少しでもいい社会を残せるように」翌年、法人格を取得してSTEELAの活動が始まる。

メンバー各々が生業とする仕事の傍ら、無給で活動に参加している。

当初は漠然としたイメージしか描けなかったが、今ではゴールまでのイメージが見え始めている。

これまでの活動やコンセプト、事業目標については過去号を参照されたい。

今号では5月22日に本部のある仙台にて行われた通常総会&説明会のイベントの様子をお伝えする。

前年度の活動と目標の意識共有

前年度は主催・共催・後援など様々な形でイベントに関わらせて頂き、個人だけではなく団体間での交流も活発になった。

イベント内容に関しても環境・エネルギーに留まらず、戦争と平和、農業体験、ボランティアをテーマとした複数のNPOとのトークイベント、ミュージシャンとの連携など多方面で活動の機会があった。

メンバーも45人に増え、パンフレット等の広報物の作成のほか、小さいながらブース出展も可能となり活動の幅も広がった。

エネルギーや温暖化をはじめ様々な専門家や既に他の地域で自然エネルギー開発を成功させている組織とも関わりができ、先駆者達からの有用な助言を頂いた。

前年度の活動により得られた人と人の繋がり、これは組織の内外に関わらず貴重な財産であり、なによりプロジェクトをより魅力あるものにしていく鍵となる。事業概要説明は伝えやすさを考慮し、何度も作り直して20分程度に集約しているが、これまでの活動や研究の積み重ねが加わって、単なる夢物語ではないことを示すものになっている。



イベントの進行や入会業務を担当する東海林理事。メンバーの半数は女性だ。



STEELAの事業概要説明では実現へ向けて様々な可能性と展望について話す。

プロジェクトは未だ途上であり、今やつと社会に出せるレベルになりつつある。

振り返ればゆっくりとした歩みであったが、今年度を最後の準備期間として来年度からいよいよ石巻へ拠点を移し、プロジェクトが本格稼働する予定である。

そのために今年度は何をしなければならぬのか。多数の業務が目の前にあるが、これまでどおり常に前に進む姿勢を取っていき

今後の展望

「市民の力で風力発電所を作る」という事業はドイツ等では既に社会に浸透し、デンマークでは市民所有の風力発電所が8割を超えている報告もある。

多くの市民が行動し、その結果社会にとって必要なインフラである発電所が開発され、市民の下に利益が還元されている。

この手法は国内ではまだまだ認知度が低く、私達も出資募集の段階までに戦略的に広報面・実務面の双方でプロジェクトを動かさなければならぬ。

年度内にパンフレットとロゴのリデザイン、活動の内容を短時間で伝える動画の作成とこれらの情報を集約させるホームページの作成を予定している。

デザインや動画作成の経験者も製作チームに加入し、各セクションで作業が進行中である。実務面では土地



中学校教諭でもある坂本副理事長による事業成果報告

の取得交渉、出資スキームの構築、それに伴い傘下となる株式会社の上り上げと続く。

来年度からは拠点を移してフルタイムで活動に集中できるように各種助成金の獲得へ向けての調整も行わなければならない。

プロジェクトが進むにつれて更に予期していない業務も増え、進行が滞ることもあるだろうが成功も失敗も一つ一つが私達の財産となり、他の地域で立ち上がる市民活動へフィードバックすることができるとだ。

全ては次世代のため。これから生まれ、育っていく子供達に少しでもいい社会を残すために、今できることをしていきたい。

それが可能なのは今を生きている大人だけなのだ。プロジェクト推進のために無償で尽力してくれているメンバー達、応援してくださっている皆様に心から感謝を伝えたい。

5月29日は仙台で自然農法に取り組む千田農園へ

寄稿者プロフィール

東海祐也
(とうばいゆうや)
石巻市出身。

エンジニアを志し、石巻工業高校電気科、東北学院大学電気情報工学科、同大学大学院にて修士号を取得。現場での仕事に従事するために博士課程を中退する。

幼い頃から動物が好きで、将来は環境問題の解決に貢献できる仕事につきたかったが、徹底した現場人間のため、大学院時代に社会問題の現場を肌で感じるために環境問題・戦争・貧困をテーマに地球一周の一人旅へ。

帰国後は反原発、植林、ゴミ拾い、反戦デモにチ



ヤリテイサンタ、自身の旅のトークライブなど様々な活動を行う。その後風力発電専門のエンジニアとなり、主にメンテナンスに従事。東日本大震災を機にエンジニアを退職してからは宮城に戻り現法人設立。現在は理事として活動している。

イベント紹介

原発がテーマのドキュメン

ンバーと一緒に田植えの手に伝いに行ってきた。

農家さんの温かい歓迎を受け、一緒に参加した子供達の笑顔に力をもらった。

年齢も職業も超えて、同じ想いを今後も共有したい。

休載のお知らせ

寄稿について一度休載期間を頂き、ご報告に足る動きがあったときに寄稿させて頂きたいと思っております。拙い記事が多くご迷惑をおかけしましたが今後長い目で活動を見守って頂けたらと思います。

第48号 ネットアンケート集計結果

【3・11の教訓は熊本地震に活かされたか?】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	7
	(2) 被災地以外の東北	3
②	性別	
	(1) 男性	18
	(2) 女性	4
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	5
	(3) 40歳以上60歳未満	12
④	政府・県・市町村の対応と3・11の教訓	
	(1) 活かされた	3
	(2) 活かされていない	7
	(3) 評価はむずかしい	10
⑤	マスメディアの報道姿勢と3・11の教訓	
	(1) 教訓は活かされた	0
	(2) 教訓は活かされていない	14
	(3) 評価はむずかしい	7
⑥	気象庁の地震報道と3・11の教訓	
	(1) 3・11の教訓は活かされた	4
	(2) 3・11の教訓は活かされていない	9
	(3) 評価はむずかしい	9
⑦	地震学者たちの地震予知と3・11の教訓	
	(1) 3・11の教訓は活かされた	1
	(2) 3・11の教訓は活かされていない	11
	(3) 評価はむずかしい	8
⑧	ボランティアと3・11の教訓	
	(1) 3・11の教訓は活かされている	10
	(2) 3・11の教訓は活かされていない	5
	(3) 評価はむずかしい	4
⑨	政府が出した「緊急事態条項」は必要か?	
	(1) 必要だ	5
	(2) 戦争時にまで拡大する法案は不要だ	5
	(3) 災害時の政府・県・市町村の連絡網を整備すれば足りる	8
⑩	総合的に3・11の教訓は活かされたか?	
	(1) 3・11の教訓は活かされた	5
	(2) 3・11の教訓は活かされなかった	7
	(3) 評価はむずかしい	9
	(4) いずれでもない	1



評価は微妙だが、3・11の教訓は活かされなかったとの見方が多かった。今回は「3・11の教訓は熊本地震に活かされたか?」であった。5年の間隔を置いて3・11と熊本地震。まだ記憶が生々しい3・11の教訓は熊本地震への対応で活かされたかという設問。回答者は最近ではめずらしく二十二名。女性も多し。

④ 「政府・県・市町村の対応と3・11の教訓」は「評価はむずかしい」が約45.5%で最多。

⑤ 「マスメディアの報道姿勢と3・11の教訓」は「教訓は活かされていない」が圧倒的約63.6%。

⑥ 「気象庁の地震報道と3・11の教訓」は、「活かされていない」と「評価はむずかしい」が約40.9%同数。

⑦ 「地震学者たちの地震予知と3・11の教訓」は「教訓は活かされていない」が50%。

⑧ 「ボランティアと3・11の教訓」は、「教訓は活かされている」が約45.5%。

⑨ 「政府が出した「緊急事態条項」は必要か?」は意見が割れたが、「災害時の政府・県・市町村の連絡網を整備すれば足りる」が約36.4%で最多。

⑩ 「総合的に3・11の教訓は活かされたか?」は「評価はむずかしい」が最多で、「教訓は活かされなかった」と続き、微妙な評価だった。

編集後記

当新聞は、今回で49回目である。シャレではないが、四苦八苦しつつも、何とかここまで来た。

寄稿者のみなさんの励まし、読者のみなさんの励まし、何とか続けられたことに感謝申し上げたい。

また、読まれようが読まれないが、開始した以上は何としてでも続けなければならぬという使命感で自分を縛りつけてきたことも続けられた要因の一つであろうと思う。

紙面づくりや、編集方針を決めるのは毎回苦勞する。最初の5号までは何とかネタがあつたが、それ以降は、ぶっつけ本番の連続。発行日が近づくと、憂鬱な気分支配されてきた。

編集者兼執筆者ということで、記事執筆の時間捻出も一苦勞である。

筆者はまだサラリーマンであり、ウィークデイならば、帰宅後の疲れた身体に鞭打って書くか、週末の時間をつぶして書く。

還暦も過ぎて、身体も大分ガタがきているため、紙面数を削減して行くか、あるいは隔月発行にしようかと、頭を悩ませることもある。

そうした時は、被災者の方々の顔を思い浮かべる。比較にならないほどの苦勞を思つてまた頑張ろうと思う毎号である。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

・プロジェクト募集要領

- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

・連絡先/企画提出先

(郵送) 〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1
ホームタウン宮前2-2
電子タプロイド新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)

・ たくさんのご提案をお待ちしています